

キング牧師記念日

1月第三月曜日

ロンドンのウエストミンスター修道院の西門上部に「二十世紀の殉教者たち」十名の像が刻まれています。その左から五人目が、マルチン・ルター・キング・ジュニア牧師です。

キング牧師の公民権指導者としての業績は今さら詳しく述べる必要はないでしょう。昨年は、一九六三年八月二八日に行った「わたしには夢がある」(I have a dream.)の演説から五十年目でした。キング牧師はその演説をした翌年、史上最年少の三五歳でノーベル賞を受賞しています。

キング牧師は一九六八年四月四日、人種差別が根深かかったテネシー、メンフィスのホテルで銃弾に倒れました。まだ三九歳でした。それから十五年後の一九八三年、キング牧師の誕生日に近い一月第三月曜日は国民の祝日となりました。

キング牧師が「殉教者」のひとりに数えられたのは、その非暴力主義のゆえです。彼は「わたしには夢がある」の演説の中で、次のように言っています。「自由への渇きを、恨みと憎悪の杯から飲むことによつて満たそうとすることがないようにならねえ。われわれの闘いは永遠に、尊厳と規律の高い次元で実行されなければならない。われわれの創造的な抗議が物理的な暴力に陥るのを許してはならない。繰り返して言うが、われわれは物理的な力に魂の力で立ち向かうという荘厳な高みに上らなければならない。」

キング牧師の非暴力主義は、恨みや憎しみを抑えこんで、実力行使を我慢するというものではありませんでした。それは、内面において憎悪の壁を乗り越え、人種や階層を超えて、社会正義を求めていくことでした。それは、キリストが「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬を

も向けなさい。あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。だけれが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と教えたことに従う道でした。相手をやっつけて問題が解決すると考えるところには、血で血を洗う果てしない闘争しか生まれません。今も、キング牧師と、彼が説き、従った聖書から学ぶべきものが多くあると思います。

プレジデント・デー

2月第三月曜日

二月の第三月曜日は「プレジデント・デー」です。この日はもともと二月二日生まれの日だつた大統領ジョージ・ワシントンを記念する日だったので、リンカーン大統領の誕生日が二月一二日とめにし、あわせて歴代の大統領すべての記念日となりました。それで、単数の「プレジデント・デー」ではなく、複数の「プレジデント・デー」という名になっています。

アメリカで最も尊敬されている大統領はジョージ・ワシントンで、ワシントンを描いた絵画は数多くありますが、中でも良く知られているのは、アーノルド・フライベルグによって描かれた「バレー・フォージの祈り」という絵でしょう。独立

戦争の時、ワシントンの軍隊はイギリス軍への攻撃に失敗し、冬の間、ペンシルヴァニアのバレー・フォージに撤退しました。物資が不足し、兵士たちの間に不満がつのり、総司令官であるワシントンへの批判が高まりました。しかし、ワシントンはそんな苦境を乗り越え、その後、戦況は有利に働き、アメリカは独立戦争に勝利し、新しい国家が誕生したのです。バレー・フォージで戦争は行われませんでした。そこはアメリカ誕生のひとつの原点となりました。フライベルグの絵は、そのバレー・フォージで、ワシントンが馬から降り、雪道にひざまづいて祈っている姿を描いています。ワシントンのリーダーシップの背後にあった彼の神への信仰を描いているのです。

実際、ワシントンは祈りの人でした。ワシントンは、独立戦争の間も、毎日、兵士たちを集めて祈りの時を持ちました。家にいるときには朝四時

に起きて、誰にも妨げられないで祈りの時を過ごしたといわれています。また、夕食後、たとえ、どんなに楽しい団欒のときを過ごしていても、九時になるとかならずキャンドルを持って自分の書齋に引きこもりました。ワシントンの甥が、好奇心から、叔父の部屋を覗いてみると、ワシントンは、椅子の前にひざまづいており、その椅子には聖書が開かれていました。かつきり十時まで、その祈りが続いたそうです。ワシントンは二十歳の時から、こうした祈りの生活に入ったと、彼が書き遺した「祈りの日記」に記されています。

ワシントンのしたことの中には、その時代の制約の中で間違ったこともあったでしょう。しかし、それでも、彼が多くの人に尊敬されているのは、信仰に基づいた誠実な生き方から来ていると思われまます。

「試し読み」はここまでです。

お気に入りでしたら

ご注文ください。



Penguin Club

www.penguinclub.net